

中桐 聡美 個展

NAKAGIRI Satomi solo exhibition

KUNST

ARZT

www.kunstarzt.com

imitate a real

KUNST ARZT では、昨年に引き続き 2 度目となる、中桐聡美の個展を開催します。
中桐聡美は、慣れ親しんだイメージをシルクスクリーンで複数枚刷り、カットティング、ステイニングというプロセスを通して、「移ろい」を表現するアーティストです。
前回の個展では、瀬戸内海の海をモチーフに、光や水しぶきを生み出すことで、「移ろい」を引き出しました。
本展では、祖母の家に 20 年以上存在する造花をモチーフに、闇や陰りを生み出すことで、造花にはありえない「移ろい」を引き出す構想です。

(KUNST ARZT 岡本光博)



imitation #1

2024 年 230×230mm

パネル、シルクスクリーン、水性インク

展覧会コンセプト

本展では、祖母の家にある仏壇や神棚、食卓、トイレなど家の様々な場所に 20 年以上置いてある造花の写真を中心に作品を展開する。本来ならば数日の間に枯れてしまう生花のイミテーションとして、造花は家の各所に彩りとして飾られている。それらは、家に住む人、生活の様子がどれだけ変化しても、「花」そのものの年月の経過を感じさせない。長年使用している家具や物に感じる愛着とは違った、時間の経過とともに湧く違和感や不気味さを表現する。

経歴

1995 岡山県出身

2018 金沢美術工芸大学美術工芸学部油画選考 卒業

2020 京都市立芸術大学大学院 美術研究科絵画専攻 版画 修了

個展

2021 「tide me over」atelierZ (岡山)

2023 「水を切って」KUNST ARZT

グループ展ほか

2022 「レジデンス作家 2 人展+」 湯涌創作の森 金沢市民アートギャラリー (金沢)

2022 「測鉛をおろす 中桐聡美 / 山田真実 二人展」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

2023 「レジデンス作家 2 人展+」金沢 21 世紀美術館 (石川)

2023 「無限に広がる版画表現」芝田町画廊 (大阪)

2023 「漁師と芸術家～波を紡ぎ、営みを織る～」滋賀県立美術館ラボ

2024 「第 16 回 岡山県新進美術家育成 I 氏賞 選考作品展」岡山天神山プラザ

2024 年 4 月 30 日 (火) から 5 月 5 日 (日)

12:00 から 18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

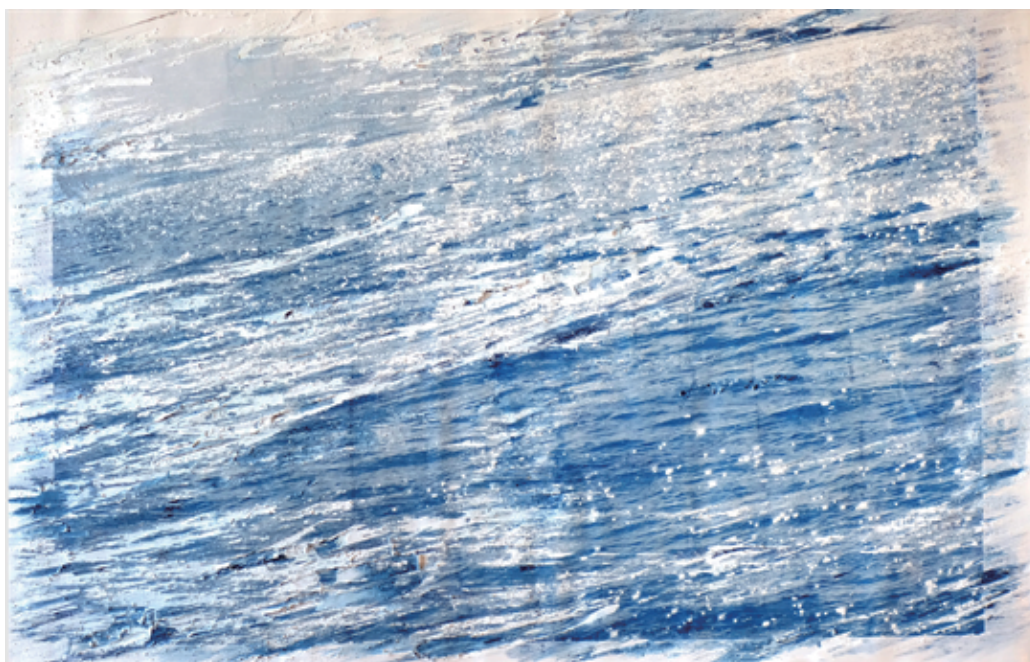
kunstarzt@gmail.com

imitate a real

アーティスト・ステートメント

記憶や感情といった、明確な形がないものの「移ろい」をテーマに制作を行っている。人が抱く感情や記憶といったものは刹那的でゆらぎのあるものだ。以前抱いていた感情を再び正確に思い出すことは難しく、形を変えてもなお残っていくものもあれば、跡形もなく消えていくものもある。同じものを同じように見ているようでも、自分と他人が見ているものは全く別のものであり、そこから感じる印象や感覚は日々異なるもので、常に変化していると考えている。

シルクスクリーンで刷った写真イメージに、カッターナイフで紙が切れないぎりぎりの深さでドローイングを重ね、その傷に水性インクを滲ませていく手法で制作を行っている。ドローイングによってできた傷に水性インクを滲ませることで、イメージが上書きされ、新しいイメージが現れる同時に、淀みのようにとどまるイメージもある。私が行うドローイングは、元の写真イメージを全て消し去るというわけではなく、面影を残しながらも別のものに変化してしまう「移ろい」である。



「foam」2023年 820×1200mm 紙、シルクスクリーン、水性インク
強い風で白く波立つ瀬戸内海をモチーフに、時の流れと共に泡のように消えていくものと、それでも残る記憶や感情を表現した。

